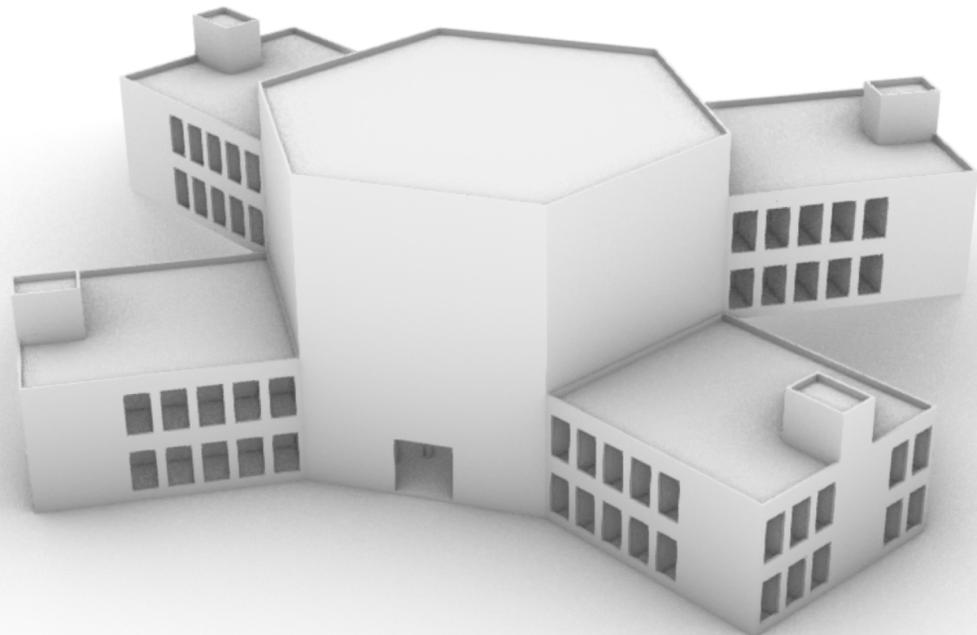
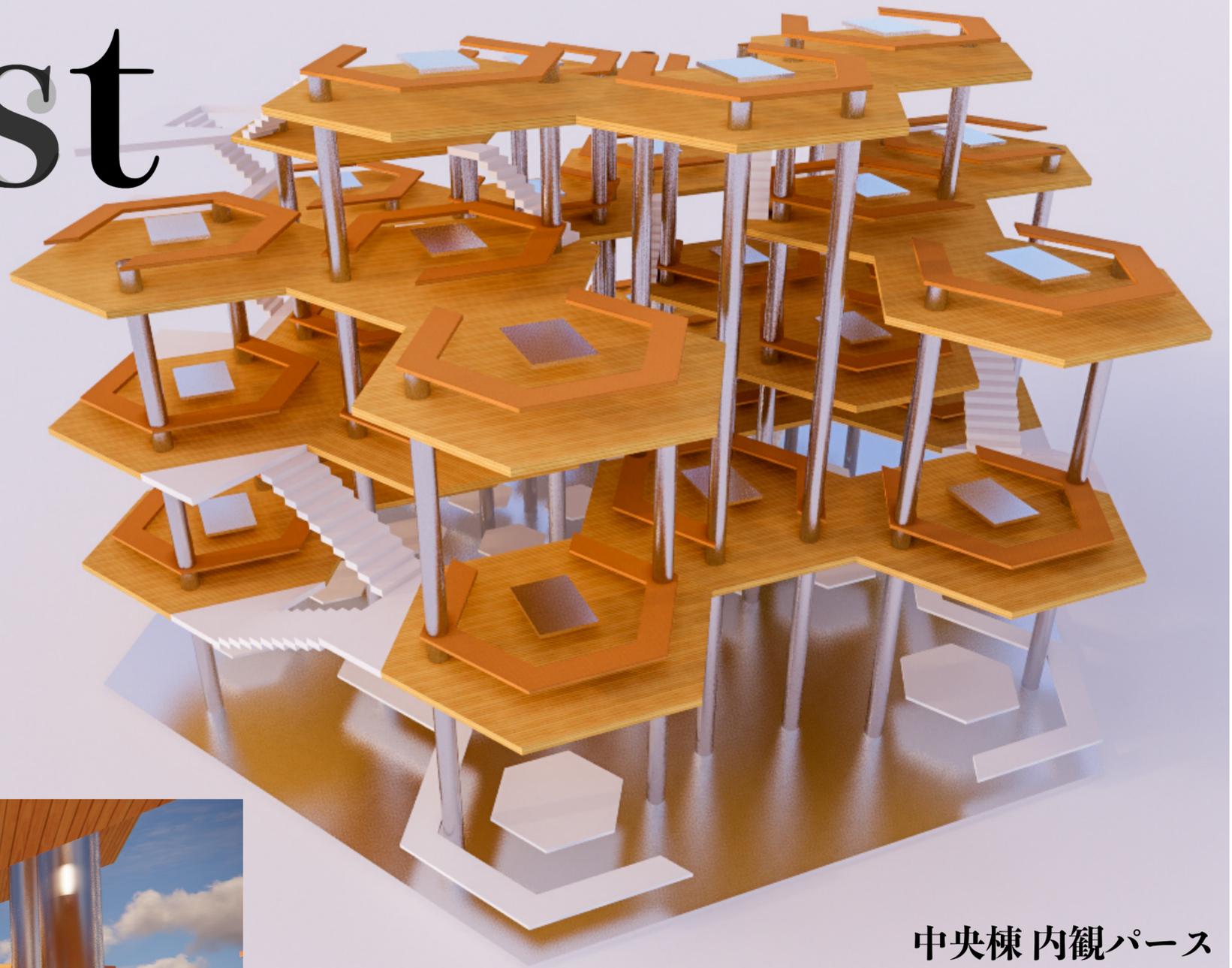


Interest



外観パース



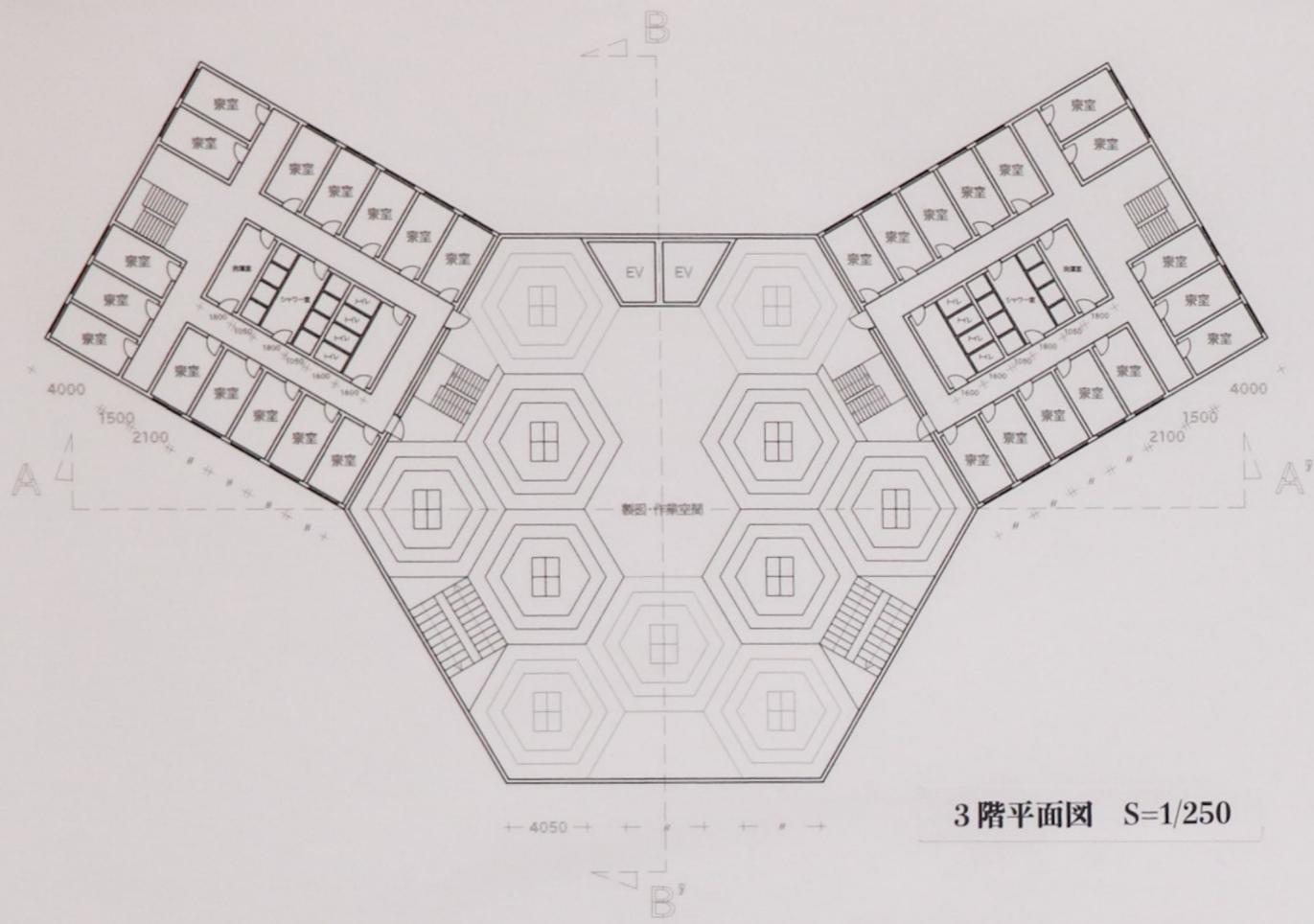
中央棟 内観パース

「グラウンドレベルの建築」として私が提案するのは、建築学科に所属する大学生を対象とした学生寮である。

大学の講義で学ぶだけでなく、様々な学年の学生との交流を通して**発想や構想が交錯**し、磨かれ、拓かれてゆくような空間と生活空間の一体化を目指した。

そして、建築を学び始めたばかりの卵のような私たちが互いに育み合い、未来を思考し創造する建築家となり羽ばたき、いつか再び訪れに帰って来ることができる、**巣**のような存在となることを願って考案した。

中央棟 内観パース

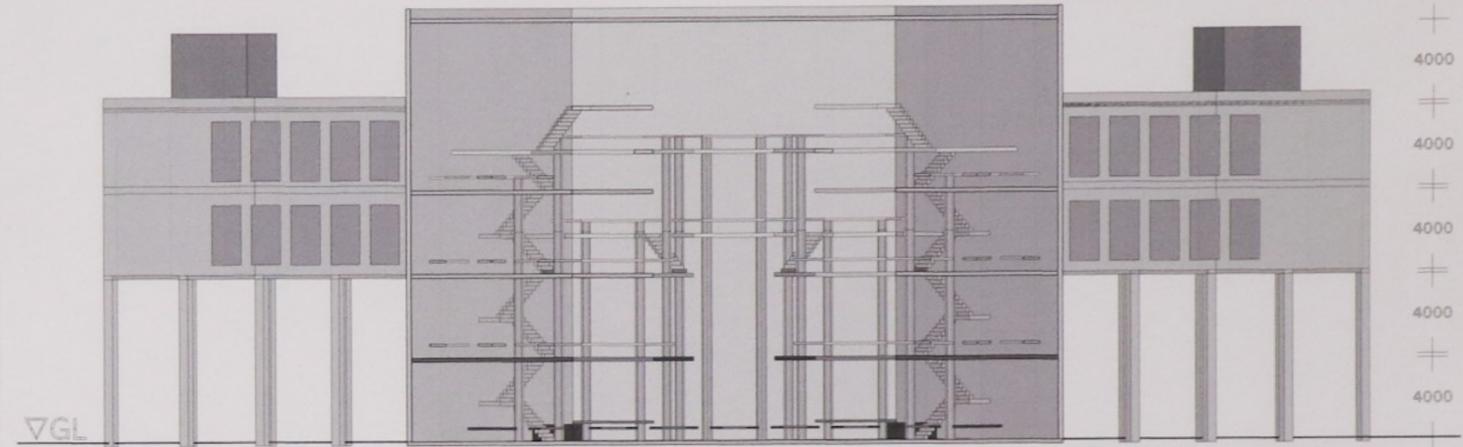


3階平面図 S=1/250

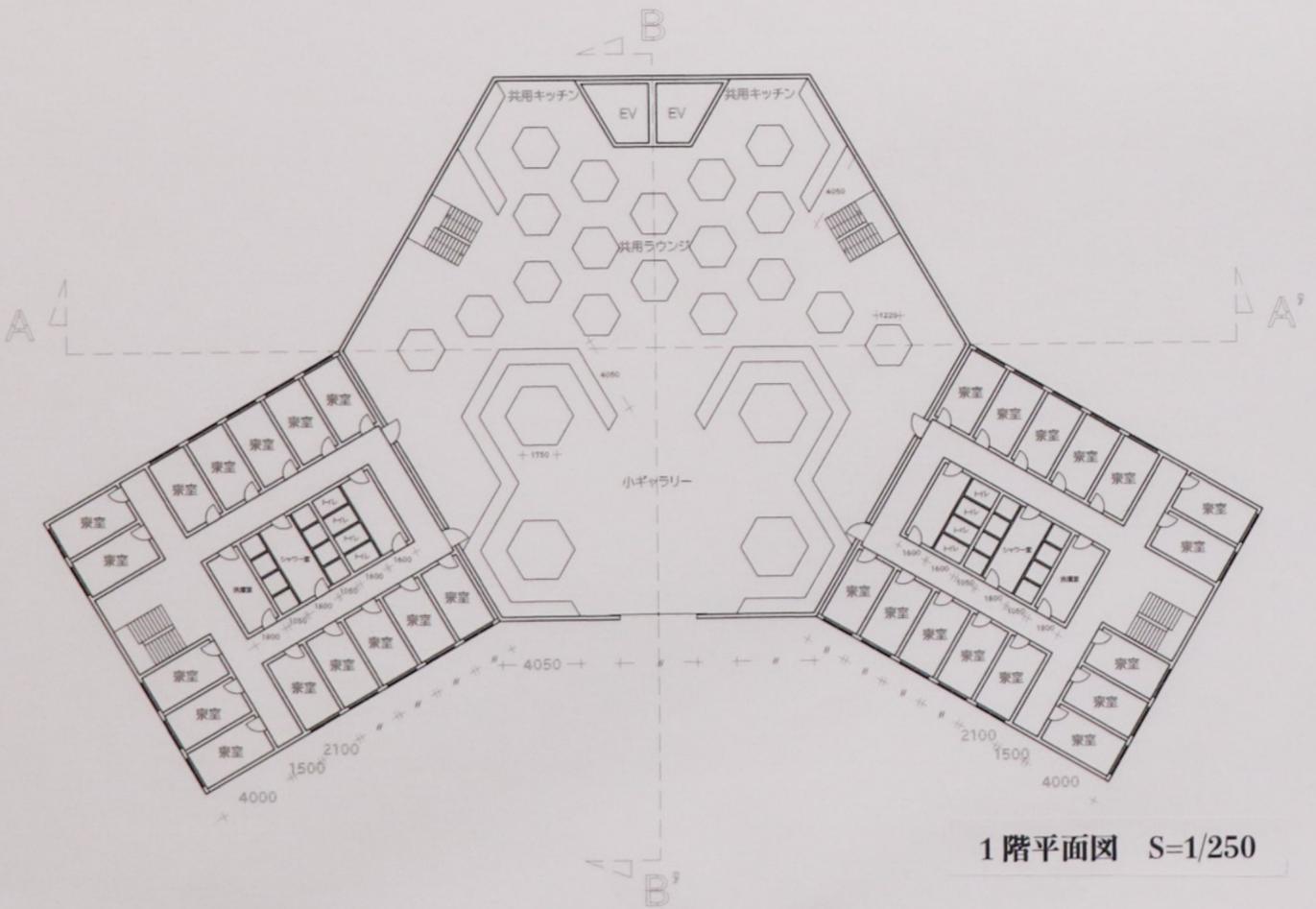
『アイデアが交錯する空間』をキーワードとして、中央棟の2階から上に、約40㎡の六角形の空間を縦に重なり合うようなイメージで半階ずつずらしながら重ね、寮生専用の**製図・作業空間**として設計した。ひとつの六角形の空間を1年生から4年生が1人ずつ、計4人で使用する。異なる学年の寮生と空間を共有することにより、学び始めた者の新鮮な視点と、知識と経験を積んだ者の豊かな発想や技術が交わり合い、互いに新しい発見や更なる追求への原動力となって欲しいという思いを込めた。

ここで始まる学生生活が建築を学ぶスタート地点となる低学年の学生は、授業だけでは会得できない先輩の知恵やアドバイスを製図や模型製作に取り入れ、高学年の学生にとっては学びを深める過程で建築学科生としての「**グラウンドレベル**」にふれることで入学当初の自分を顧みることもできる場となる。

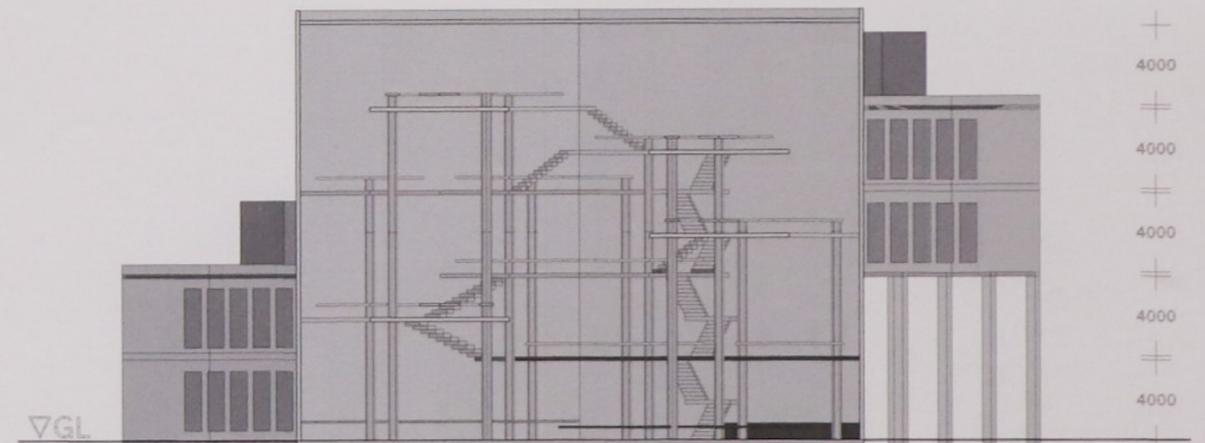
製図・作業空間のどの階にも壁は設置せず、半階ずつ**空間がつながる広がり**を重視した。4人が共有する空間同士を断絶せず開放的な構成にすることで、学年や空間を越えてさまざまなアイデアが交錯することを促すようにした。



A-A'断面図 S=1/250



1階平面図 S=1/250



B-B'断面図 S=1/250

中央棟の1階には、調理・飲食可能な**共用ラウンジ**の他に、**小ギャラリー**を設計した。ここでは、寮に所属する学生が大学の授業などで制作した図面や模型などを展示する。寮内なので一般の閲覧者は想定していないが、**卒業生の訪問は自由**とし、彼らが自分達の巣立った学生寮を訪れ、後輩の作品を閲覧したり、社会での経験をもとに後輩たちと交流したりできる空間とする。在学中だけでなく、社会に出てからも、後輩の意見や作品にふれる機会を通して、建築学科の仲間とアイデアを磨き合い学んだ日々、つまり建築家としての「**グラウンドレベル**」にあった頃の自分に立ち返られる心の拠り処のような空間を目指した。